

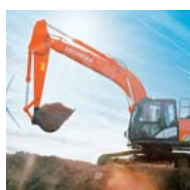
ICT建機で
生産性をあげる。
現場の安全も確保

若者も女性もシニアも
Solution Linkageで
みんなの動きがいをアップ



みなさんと
日立建機がめざす
SDGs

海外の人にも
現場でのスキルを
学んでもらおう



世界を変える力、 SDGs

SDGsという言葉をご存じですか？

地球環境を守り、貧困をなくして平等で豊かな
私たちの暮らしが永遠に続くようにするために——。

豊かな未来のために17の目標を定め、

2030年までの達成をめざす世界的な取り組みです。

日立建機でも、大地に暮らす世界中の人々のために

インフラ整備や街づくり、技術革新、雇用の機会など、事業を通して、
スケールの大きい課題の解決に向けて取り組んでいます。

文／若槻基文 写真／阿部卓功 イラスト／コダシマアコ

feature articles

“誰一人取り残さない”世界をめざして 日立建機のSDGsアクション

世界は、環境・社会・経済の面でさまざまな課題に直面している。
建設機械を通して大地と関わっている日立建機だからこそ、SDGs 達成に向け使命を果たさなければならない。

SDGsとは、国連が2015年に採択した Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標のことで、すべての国連加盟国が2030年までに達成する行動計画ともいえる。国際社会が解決すべき共通課題として、「貧困の解消」「気候変動への対応」「ジェンダー平等の実現」など計17の目標（ゴール）と、169にのぼる具体策（ターゲット）からなり、2030年までの達成をめざしている。

難しそうだし、自分には関係ないと

思う人も少なくないだろう。でも、「現場や事務所でお弁当を残さず食べて食品ロスを減らす」「燃費性能がいい油圧ショベルを使う」などという、一人ひとりの心がけこそがSDGsにつながる。基本理念として「地球上の誰一人として取り残さない」と掲げていることもポイントだ。その背景には、すべての人々が自由に、尊厳を持って、貧困と絶望から解放されて生きる権利を持つ「人間の安全保障」の考え方がある。

あらゆる人々がこの考えを念頭に、人種や性別、宗教、文化の違い、あるいは先進国と途上国の壁を乗り越えて、協調していこうとする姿勢が大切だ。このSDGs、目標達成における「企業」の役割にも非常に期待が大きい。例えば、電動化技術やIoT、AI（人工知能）やロボティクスなど最新テクノロジーの活用により、生産拠点や建設現場、物流段階での省エネ化・省人化が進めば、CO₂排出削減に直結し、気

候変動対策に貢献することになる。同様に農業の生産性向上につながるような技術革新を生み出せば、貧困・飢餓の撲滅に大いに貢献するだろう。

社会課題の解決を通じて 企業価値の増大をめざす

実は日立建機では、SDGsが世界的な潮流となる以前から、自社の製品・サービスを各国の社会インフラ整備や資源開発、地球温暖化の防止などに役立て、国際社会の持続的な発展に貢献していくことをめざしてきた。本業の副産物としての社会貢献ではなく、あくまで本業を通じて社会課題の解決に寄与し、中長期的な企業価値の増大に取り組んでいるのが大きな特徴だ。

この姿勢をより明確化するため、2014年度から「自社の事業にとっての

重要性」と「社会からの期待」という2つの観点で、自社の重要課題を特定する「マテリアリティ分析」を実行。その結果、日立建機の最重要課題として位置づけたのが、右図に示した3つのCSV[※]テーマである。

さらに16年度からは、CSVテーマをベースに本格的にSDGsへの取り組みを開始している。日立建機の事業活動と17の目標との関連性を詳細に整理し、自社が特に注力すべき10の重点目標を設定した。いずれも3つのCSVテーマと明確に関連づけられており、事業活動を通じて、2030年の目標達成に向けてまい進していく考えだ。

※CSV(Creating Shared Value)……「共通価値の創造」の意。戦略研究で知られるマイケル・ポーター氏が提唱した概念で、企業が社会・環境課題の解決を通じて「社会価値」と「事業価値」の両方を生み出していくことを指す。

（日立建機のCSVテーマ）

CSVテーマ1

グローバル環境課題 の解決

CSVテーマ2

社会基盤を支える 現場力の強化

CSVテーマ3

コミュニティの 発展への貢献

製造プロセスの環境負荷低減や、ICT・IoT技術の活用などで「グローバル環境課題の解決」をめざす。また建設機械の遠隔管理技術や無人化施工技術などの先端技術が「現場力の強化」を助け、部品再生事業で現地の雇用を創出するなど積極的に「コミュニティの発展」に貢献する。

日立建機が重点的に取り組むSDGs



SDGsは①貧困、②飢餓、③保健、④教育、⑤ジェンダー、⑥水・衛生、⑦エネルギー、⑧経済成長と雇用、⑨イノベーション、⑩不平等、⑪都市、⑫生産・消費、⑬気候変動、⑭海洋資源、⑮陸上資源、⑯平和、⑰実施手段の17の目標からなる。



すべての人に 質の高い教育を確保

教習所での資格取得支援、新興国での教育や自立支援などで、将来を担う人財の育成に取り組む。



グローバル・ パートナーシップの活性化

バリューチェーン全体でCSRを推進し、外部との協創によるイノベーションの活性化に貢献。



持続可能な水資源と 衛生管理

事業活動に伴う水の使用量削減や化学物質を管理。水資源を守り、節水活動で地域コミュニティを支援する。



気候変動やその影響を 軽減するための対策

建設機械のハイブリッド化、電動化、太陽光発電の導入、水資源の保全などで気候変動リスクの低減に寄与。



ジェンダー平等を達成し、 女性の能力強化を

建設業界での女性活躍を後押しし、女性が高いモチベーションで就業できる雇用環境を整え、ジェンダー平等を促進する。



強靱で長く住める 都市・暮らしを実現

建設機械の提供や支援により各国のインフラを整備。自治体へのレンタル資機材の供給により災害に強い持続可能な都市や居住空間を実現。



安価で信頼できる 持続可能なエネルギー

生産現場において製造プロセスにおける使用電力を見える化、太陽光パネルを設置し、効率的なエネルギー使用を実現。



中古車レンタルや 部品再生で製品価値を持続

レンタル事業のグローバル展開、部品再生事業の取り組みにより、製品のライフサイクル価値を向上させる。



働きがいのある 人間らしい雇用機会を

新興国で現地人財を採用し地域雇用の創出に寄与。働き方改革推進で、生産性を高め経済成長をめざす。



持続可能な産業技術と 強靱なインフラ

Solution Linkageや、無人化・ロボット技術など、新たな価値を生み出す革新技術を開発。災害に負けない強靱なインフラ開発にも貢献。